

呉・東広島

スーパーや市が食材提供

東広島市内にこの半年間で子ども食堂が4カ所開設された。スーパーが消費期限の迫った食材を提供したり、行政もフードバンクを設けたりして活動を後押し。貧困家庭の支援に限らず、居場所づくりや地域交流の場としても認知度が上がってきた。

(鈴中直美)

子ども食堂 支援広がる

東広島 半年で4カ所開設

安芸津町の子ども食堂「ハーモニー」は元養護教諭の重田千鶴子さん(60)が7月にスタートさせた。月2回、風早地域センターで昼食を提供する。利用料は子ども100円、大人200円だ。

重田さんは「貧困家庭に限定すると周囲の目が気になって寄りにくい」。地域の誰もが気軽に集まれる場になることを願い、一般市民も積極的に受け入れて



消費期限切れ直前の食材が入った段ボール箱をハロースで受け取る子ども食堂のスタッフ(左)。食堂を支える大きな力になっている

ただ、利用者が増えれば必要な食材も当然増える。それを支えているのがスーパーのハロース(福山市)だ。ハロースは消費期限が近い食材を子ども食堂などに提供する取り組みを全80店舗で実践中。東広島市内でも3

カ所の子ども食堂が同社からの食材提供を受け、運営している。

「資金に余裕はないが多くのサポートのおかげでなんとか低価格で栄養ある献立を出すことができる」と重田さん。ハロースの食材提供のほか、風早自治協議会や地区社協からも食器購入や運営費の一部を負担してもらっている。近所や知人からは野菜が届く。10万円を上限に運営費の一部を助成する制度を導入した尾道市の

フィリピン・中国から高校生 西条農高生、英語で討論



グループごとに決められた仮想的な国の特徴を確認し合う生徒

東広島市の西条農高の生徒が17日、来校したフィリピン、中国の高校生と世界の課題の解決策を議論した。同校が指定されているスーパーサイエンスハイスクール(SH)事業

校連携で滞在しているフィリピン大付属ルラル高の4人、別の交流事業で訪れた四川省重慶市の5校10人が参加。5グループに分かれ、仮定の国を動かす

備えや条約への態度を国連の場で決め、国同士の協力の大切さを学んだ。日本の高校3年生に当たるルラル高のノエル・マリー・P・ビロドレスさん(17)は「異なる国の友達と議論し決断するのは楽しい」と笑顔だった。

同校のSHは国際的な科学技術人材の育成を目指す第2期の5年間の2年度目。3年山崎大地さん(18)は「コミュニケーションに使う英語力の大切さがあらためて分かつ

呉 支 社 ☎0823(22)5525 FAX(25)4817
東広島総局 ☎0822(422)2660 FAX(420)0124
竹原支局 ☎0846(22)2393 FAX(23)0027
江田島支局 ☎0823(42)0213 FAX(40)0008